

環境アセスに関する技術指針(ダム)

閣議了解(1972)

・ 78年技術指針(建設省)

ハツ場ダム評価書(1985)

湯西川ダム評価書(1985)

辰巳ダム評価書(1987)

閣議決定(1984)＝閣議アセス

・ 85年技術指針(建設省)

南摩ダム評価書(1993)

ハツ場ダム 環境影響 評価書

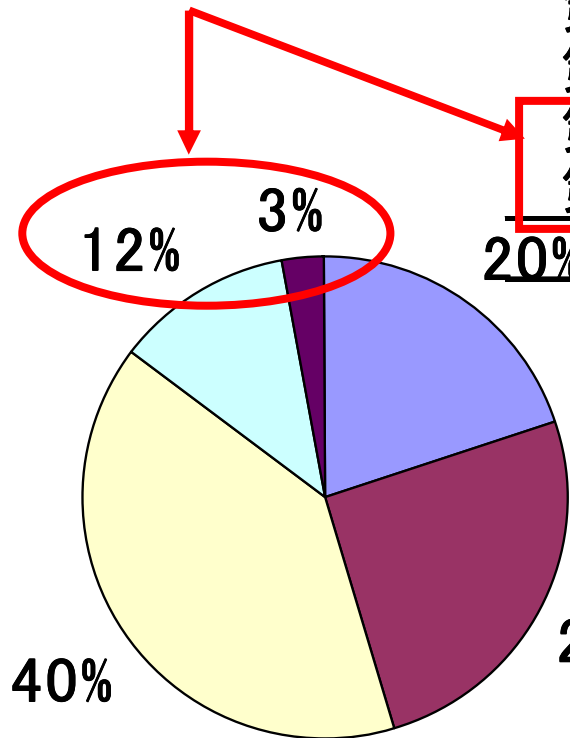
建設省関東地方
建設局(1985)



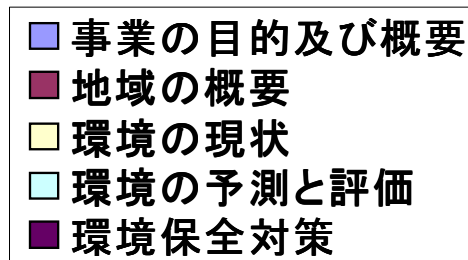
ハツ場ダム 85年アセス書

表. 85年アセス書のページ配分.

重要部分が
わずか！



章	内容	ページ数	%
第1章	事業の目的及び概要	15	20.0
第2章	地域の概要	19	25.3
第3章	環境の現状	30	40.0
第4章	環境の予測と評価	9	12.0
第5章	環境保全対策	2	2.7
合計		75	



85年アセス書の問題点 (1)水質

(1)水質	85年アセス書	問題点	評価
調査結果	<ul style="list-style-type: none">・調査地点は2か所・健康項目は環境基準内(文章は数行)	<ul style="list-style-type: none">・方法, 時期, 結果の説明なし・水質の季節変化が不明	<ul style="list-style-type: none">・調査データ不足・結果の解析が不十分
影響予測と評価	<ul style="list-style-type: none">・水質への影響は少ない(文章0.5ページ)	<ul style="list-style-type: none">・データが少なすぎる・下流のみの予測・予測の根拠が示されていない	<ul style="list-style-type: none">・論理的な予測を行ったとは言えない・ダム湖の水質に触れていない・上流の約3万人の生活に触れていない
保全対策	<ul style="list-style-type: none">・水質保全に配慮し貯水池の水質監視を行う(文章は2行)	<ul style="list-style-type: none">・保全の配慮と水質監視という言葉を並べただけ	<ul style="list-style-type: none">・変化が生じたときの原因究明の手法とその対策がない

湯西川ダム

栃木県日光市栗山



形式：重力式

コンクリートダム

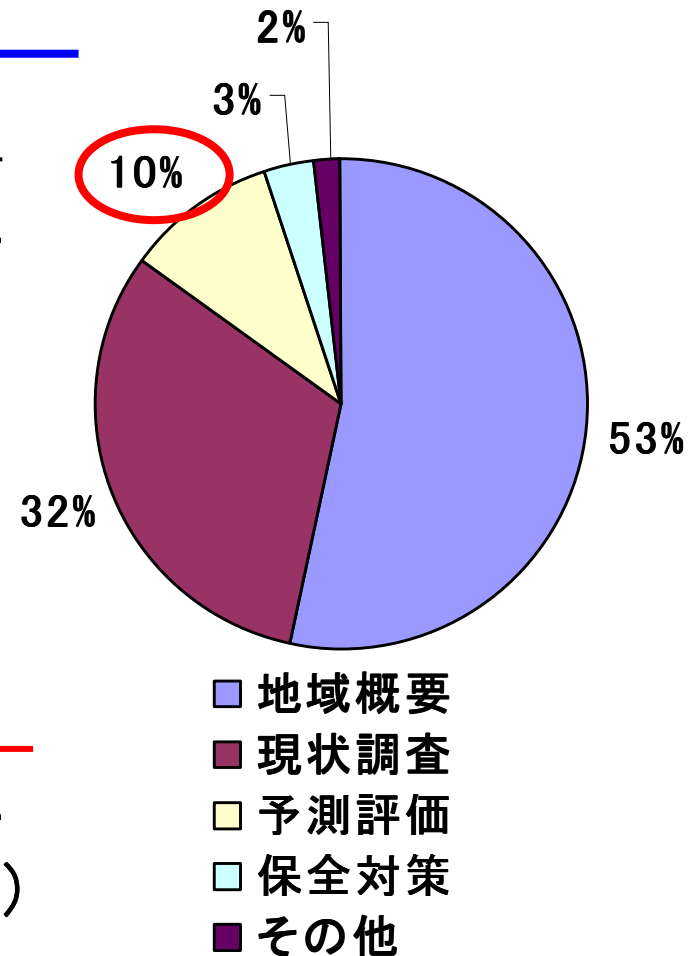
堤高 119.0m

堤頂長 320.0m

湯西川ダム 85年評価書のページ配分

章	内容	ページ数
第1章	事業の目的及び概要	
§ 1	地域の概要	22
§ 2	事業の目的	4
§ 3	事業の概要	6
第2章	環境に及ぼす影響	
§ 1	環境影響要因と環境項	1
§ 2	環境の現状	19
§ 3	環境の予測と評価	6
第3章	環境保全対策	2

計60p(実質)



湯西川ダム 85年評価書の問題点(2)

水 質

調査結果：2地点のみ，1978，1981の古いデータを使用，BOD，大腸菌群数は一部で基準を満たさない。

予測と評価：平均低水量が増加し下流では水質改善になる(?)。

保全対策：保全に配慮する。

問題点：温泉排水によるダム湖の水質悪化を予測せず。2004年にBOD，大腸菌群数増大。

南摩ダム

鹿沼市上南摩

型式 ロックフィルダム

堤高 86.5 m

堤頂長 382.0 m



思川開発事業関連略図

南摩ダム 85年技術指針の問題点(1)

1. アセスの対象とする環境要素が限定された.

「水質汚濁, 地形・地質, 植物, 動物, 景観」の5項目

→ ダム工事の「騒音, 振動」が除外された.

2. 予測を行う環境要素の設定基準が限定.

・地形・地質, 動物, 植物については「**学術的価値**の高いもの, 天然記念物に指定されているもの等」

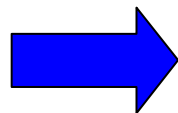
・予測方法は「**貴重種, 貴重群落**の消滅の有無または改変の程度.

→ 普通種とその生息環境が除外された.

南摩ダム93年評価書の問題点

3. 予測と評価(動植物)

1. **予測**:『生育(生息)に適する環境が、湛水区域では水没により消失し、また、工事実施関連区域では工事に関わる区域に該当した場合は消失する』
2. **評価**:『工事実施関連区域の上下流や南摩川流域の周辺には、生育(生息)に適する環境が広く分布し、その環境が維持される。したがって、ダム建設による影響は少ない』



対象種すべて同様の記述

辰巳ダム (1987年アセス) 金沢市・犀川

